なまずくん通信 2

沼津土木事務所
沼川新放水路整備課
H30.3.29 発行

沼川新放水路防潮ゲート部

なまずくん通信とは

この広報誌「なまずくん通信」では、沼川新放水路整備事業を中心に、沼川流域における治水対策事業について分かりやすく説明していくとともに、これからの川づくりの最新情報をお知らせしていきます。

今回は、沼川新放水路整備課の活動状況を紹介します。

目次

沼川新放水路整備事業の平成29年度実施内容
沼川新放水路整備事業の平成29年度PR活動
今回のNEWS①：工事のお知らせ（上流区間）
今回のNEWS②：工事のお知らせ（下流区間）
今回のTOPICS：海岸吐口部の埋塞対策
キャラクター紹介　なまずくん&なまず仙人

今回のTOPICS：海岸吐口部の埋塞対策

新放水路の吐口は、セットバック形式（浜の真ん中に吐口を設ける）を採用していますが、「バーム」による土砂の埋塞が課題となり、安定的な放水路機能の確保が懸念されていました。

バームとは、静穏な波浪で形成される砂の堆積のことです。

現地観測と模型実験によりメカニズムを解明

既設施設である新中川吐口の現地観測と水理模型実験により、バーム形成のメカニズムを検証しました。

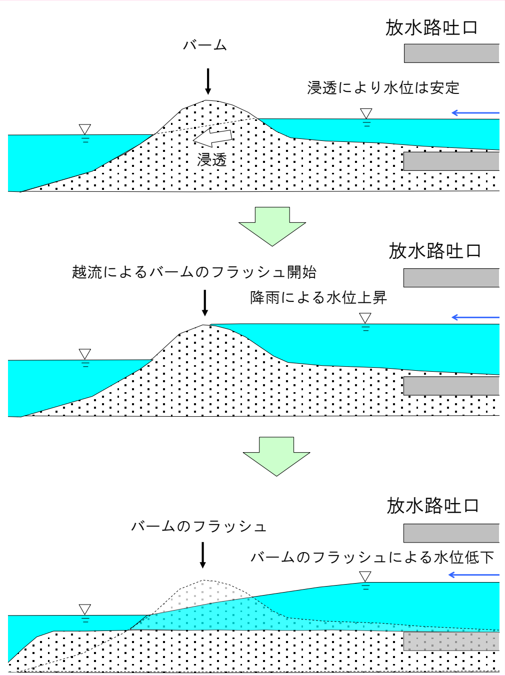
高波浪時には放水路の吐口をほぼ埋塞させるほどのバームが形成されることもありますが、河川の流水は浜の礫間を浸透し海に流れるため、河川の水位が上昇する影響範囲は限定的で、住宅地に被害を及ぼすようなことはありません。

また、この埋塞土砂も小規模な出水によりバームを越流することで、フラッシュ（崩壊）され、洪水を安全に流下させることを確認しました。

沼川新放水路への反映

沼川新放水路も通常の維持流量によりバームでの流路を確保し、小規模な出水、あるいは人為的なフラッシュ放流により、吐口の埋塞を軽減させます。

新中川に形成されるバーム



キャラクター紹介　なまずくん&なまず仙人

沼川新放水路により親しんでもらうため、２匹のキャラクターが沼川からやってきました。
本誌「なまずくん通信」だけでなく、ホームページなどでも活躍してくれています。

なまず君

河川工学の博士になりたいナマズの男の子。
今はなまず仙人の弟子として修業中の身。趣味はジョギング。

なまず仙人

沼津市の安全・安心を願うナマズの仙人。
そろそろ隠居したいと考え、なまず君を弟子にとった。

表紙イメージ「沼川新放水路防潮ゲート部」について

沼川新放水路の防潮堤交差部には、高潮、津波、高波浪等を防ぐため、「防潮ゲート」を設置します。

また、吐口部付近に形成されるバームや、放水路のBOX内にたまった土砂を、水の力を使って排除する「高水槽（フラッシュ放流施設）」も設置します。

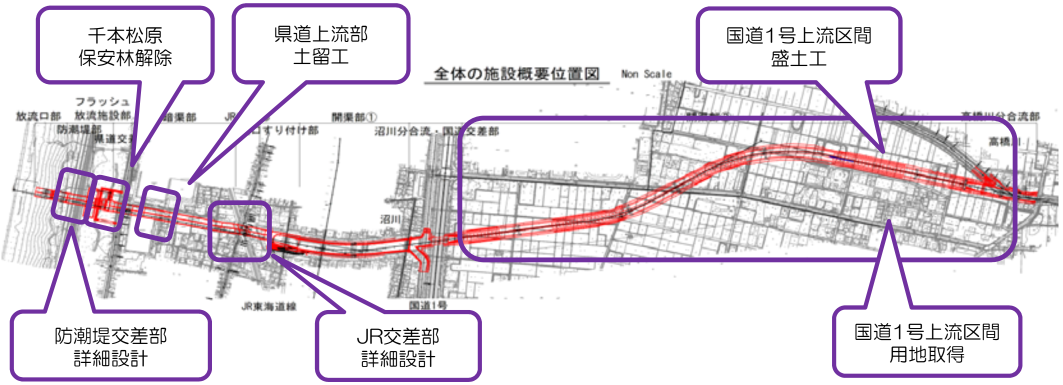
沼津土木事務所沼川新放水路整備課
Ｔｅｌ：０５５－９２０－２１２９

沼川新放水路整備事業の平成29年度実施内容

平成29年度は、沼川新放水路の国道1号より上流区間において、用地取得を進めるとともに、新放水路本体の本格的な工事（土留工、盛土工）に着手しました。

また、防潮堤交差部及びJR交差部の詳細設計に着手し、国土交通省・ＪＲ東海との協議や、保安林解除に向けた関係機関との調整を進めました。

来年度も引き続き、上流区間の用地取得、工事に影響する墓地や、支障物件（東電、NTT）の移転、各種設計、調査、関係機関との調整を進めていきます。



沼川新放水路整備事業の平成29年度PR活動

沼川新放水路の事業をＰＲするため、出前講座（9/15原東小学校、10/20今沢小学校）や、各種イベント（11/17～18土木の日イベント、2/18沼津港事業ＰＲイベント）を行いました。

親しみやすい広報を目指し、今後も工夫していきます。

地元小学校出前講座

土木の日イベント

沼津港事業PRイベント

今回のNEWS①：工事のお知らせ（上流区間）

沼川新放水路の国道1号より上流区間の事業用地において、「仮囲い盛土」と「プレロード盛土」の工事を行います。

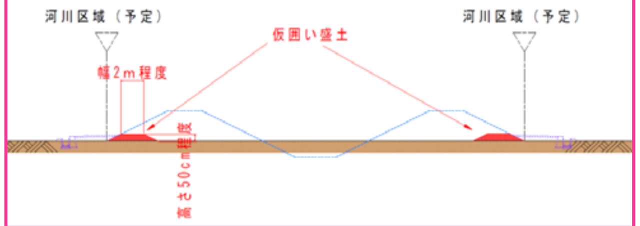
「仮囲い盛土」により、幅2m程度、高さ50㎝程度の盛土で囲いを行い、雨を貯める暫定調整池をつくります。

また、この地域は軟弱地盤であるため、構造物の整備に先立ち盛土を行う「プレロード盛土」を地盤の沈下程度を確認しながら行います。

既設の水路系統や田畑への乗り入れを確保しながら、周辺の耕作に支障とならないように工事を進めていきます。

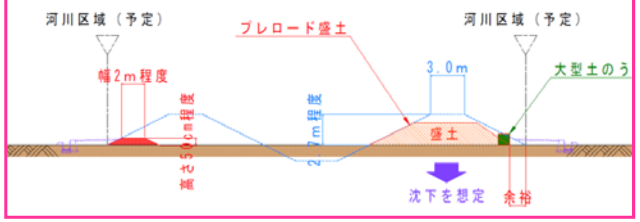
「仮囲い盛土」とは

河川区域予定ライン（用地買収ライン）に沿って、小さな盛土を作り、一時的に雨を貯める暫定調整池をつくります。

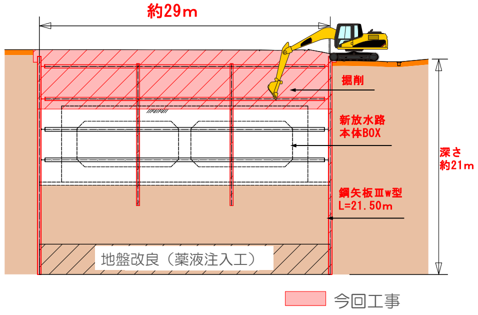


「プレロード盛土」とは

新たに作る堤防と同程度の荷重を盛土により地盤に載荷し、あらかじめ沈下を促進させることで地盤の強度を高める工法です。



今回のNEWS②：工事のお知らせ（下流区間）

沼川新放水路の県道富士清水線～ＪＲの区間における土留工（鋼矢板打ち込み）と掘削工は、当初予定どおり、無事に工事完了しました。

来年度も引き続き、地盤改良（薬液注入工）の工事を進める予定です。